

## 一人ひとりの自立をめざした学級づくり

### I 主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。多くの問題を抱える現代社会において人々は、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりや親切の心となると希薄になってきているように感じる。現代社会においては、競争を乗り切り、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を省みない傾向がある。そうした社会の流れの中で、学校においても「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起きている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに、自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し、そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで、本部会では、一人ひとりが認められる学級づくりをめざして、「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も、子どもたち同士のつながりを大切にしたい学級づくりを目指し、問題の予防に努めていく中で、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について明らかにするための研究を行っていく。

### II 研究の内容

#### 1 研究の方法

(1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議する。

〈レポートの例〉

エンカウンター、特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動、学級力向上のための取組など学年の発達の段階や各学級の実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

(2) 講師を招き「子どもたちの自治の力を育てる指導・支援の在り方」についての学習会を行う。

(3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

#### 2 研究の具体的内容

##### (1) 第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認・・・研究テーマ・研究方法について

##### (2) 第2回研究会

年間計画についての検討・確認 春季教研の環流報告

##### (3) 第3回研究会 実践発表Ⅰ

・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

\*子供たちが「できた」「自分のよいところ」を実感できる指導の実践

\*子どもの思いを活かした学級活動(係活動を中心に)の工夫

\*学級力の取り組みを通じた実践

\*エンカウンターや授業評価による子どもの自主性を育てる工夫

##### (4) 第4回研究会 夏季学習会・統一授業研指導案検討

- ・「子どもたちの自治の力を育てる指導・支援の在り方」  
講師：甲州市カウンセラー 長尾 雅裕 先生
- ・授業案検討会
- (5) 第5回研究会 授業研究①
  - ・学級活動  
「自分のことをもっと知ってもらおう」（祝小1年 有井千恵子先生）
- (6) 第6回研究会 実践発表Ⅱ
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
    - \*アクティビティーを用いた学級集団づくり
    - \*自己肯定感を大切にしたい、特別支援学級での支援の工夫
    - \*アドラー心理学を生かした学級づくり
- (7) 第7回研究会 実践発表Ⅲ・秋季教研環流報告
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
    - \*行事を生かした学級づくりの実践
    - \*チームとして課題に取り組む実践
    - \*QUを生かした子ども同士の関わりへの指導と工夫
- (8) 第8回研究会
  - ・統一授業研指導案検討会
- (9) 第9回研究会 授業研究②
  - ・学級活動 「うまくつたわるかな?～コミュニケーショントレーニング～」  
(東雲小2年 小林 千恵美先生)
- (10) 第10回研究会 実践発表Ⅳ
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
    - \*子どもたちのやる気を引き出す2年間の継続指導の実践
    - \*言葉を大切に、クラスの憲法作りに取り組む実践
    - \*「気づき考え行動する」ためのプロジェクトに取り組む実践
    - \*班編製の工夫と学級力を生かした学級指導
  - ・研究のまとめ（成果と課題）

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

- ・校種や教科の枠を超えて、学級づくりのための様々な視点や先生方の実践を学び合えたことがよかった。日々の実践に役立つものは、自分のクラスに還元することができた。
- ・授業実践を2回行い、研究を深めることができた。
- ・子ども達を取り巻く環境から考えても、価値ある研究テーマであった。

#### 2 課題

- ・毎年、県教研で「子どもの権利条約」が話題になるので、その点について学習を深めたい。
- ・県教研ではテーマごとの分科会となったことはよかったが、参加体制はレポート発表のある分科会のみになるとよい。
- ・「主体的・対話的で深い学び」につなげるための研修もしてみたい。
- ・「自立」の要素を発達段階ごとに細分化して部員で共通理解すると、研究や学級での取り組みの方向が明確になるのではないか。
- ・中学校の先生方にもより多く参加していただき、中学校生活につながる学級づくり、自立とは何かなど様々な考えを聞きたい。
- ・多様な学級づくりの手法について学ぶような内容を増やしてもよいのではないか。
- ・小中の情報交換ができるという良い点もあるが、子どもの年齢差が大きいので、生活指導上の問題点が多少違う気がする。

(部長 佐野 理恵)